桂　菴　墓

【所　在　地】鹿児島市伊敷町仮屋　桂庵公園
【種　　別】国指定史跡
【指定年月日】昭和 11 年９月３日

鹿児島市の西郊，梅ヶ淵に木々に囲まれ一段と高く築かれた桂庵玄樹の墓がある。

桂庵玄樹は，応永 34（1427）年に山口で生まれ，のち京都の南禅寺に入り，禅や儒学を学んだ。応仁元（1467）年明に渡り，７年間滞在して儒学を学び，帰国後は石見（島根県），豊後（大分県），肥後（熊本県）を経て，島津忠昌の招きで文明 10（1478）年に鹿児島に来た。鹿児島では，はじめ現在の清水町，ついで長田町に住み，76 歳のとき，伊敷梅ヶ渕の東帰庵に移り，永正５（1508）年にここで没した。現在の墓は，この東帰庵跡に，享保７（1722）年大竜寺僧竜玉らが建立したもので，傍らには佐藤一斎の撰文を琉球人鄭元偉の揮毫により刻んだ碑がある。

桂庵玄樹は，鹿児島滞在の 30 年間に，文明 13（1481）年にはわが国で最初の朱子新註『大学章句』の刊行や多くの門人に朱子学を講ずるなど，わが国近世朱子学の源流をなした。鹿児島における学統は「薩南学派」と称せられて，多くの俊秀を輩出している。